

水野先生に二相談した小学6年生の2月、息子は週2回程
休みたい日に学校を休んでいました。子供の自立を目標に、
過保護過干渉をせず全てを息子にゆだねていたのですが、
バランスを考えず極端なやり方で接し続けた結果、欲求に従う
行動する様になりました。主人も私も、この対応のやり方
よいか日々迷い、他のやり方があったのではと後悔し、母親で
ある私のせいと自分を責めて過責していました。

そんな私達にも水野先生が教えることができました。親の思いを伝える
ことと、学校に行っている限り会話は楽しく思う様にしてよいということでした。
それまで「のどが痛いから休む」という時、内心そんな理由で...と思い
ながらも、自分で判断して決め、息子を尊重して受け入れていたのですが、
「のどが痛い位で休むのはおかしいと思うよ」と、親が受け入れられない
ことには、(ほつり)とその気持ちを伝えた方がよいとのことでした。
そのようなことで、息子の持つ休む休まないの判断基準の甘さを正しく
することができ、結果支援頂いてから2週間が休むことがなくなりました。
また、私が「へえ」「そう」の返事で済ませていた、受けられない会話だけの
冷めた親子関係を、能動的に聞き話をふくらませることで暖かい
関係に築き直すことができ、さらに会話を楽しむ経験と家庭内で
することで会話のし方がわかり、学校でも同じ様にしてみよう気は
向ける助けになりました。私が変わることで息子も変わり、すぐにテレビの
話題から好きな読書や音楽について会話を楽しめる様になりました。

そして、それまで母子間だけで何とかしようとしてきたところに初めて、家長としての父親の立場を作って頂くことで、母は話を聞いて気持ちと汲み、父はこそどという時に締めるという役割がはまり、何かの時にはお母が気持ちと伝え、それでも変わらない時には家族会議の場を設けて父にしっかりと話してもらおうという形ができ、夫婦で協力して子供に向き合えることができる様になりました。

現在息子は友達と自転車でお母様の中学校へ通っています。

まだまだ不安はありますが、支援頂いてからの息子の成長を目の当たりにしてきて今、「手遅れということはない」「どちらに転んでも次に活かせる様プラスがと出ればいい」という先王のお言葉を頭に置いて、折々の家族会議で親の思いをしっかりと伝えつつ、あとは息子の力を信じていこうと思います。

水野先王には、言葉の持つ力と、その場面に応じて具体的に教えて頂きました。言い方ひとつで、親の愛情を感じさせつつ子供に考えさせ、より良いと思える方向に導くことができるのです。くれぐれも感情的にならず、言うべきタイミングをみず、どの言い方が良いのかをよく考え上手にバランスよく言葉をかけていきたいなと思います。